

昭和44年11月、
JRA初のトレーニングセンターが栗東に誕生した。
栗東トレーニングセンターで、
サラブレッドは日々厳しい鍛錬を積み、
数々の名馬が日本国内で活躍し、
世界へ羽ばたいていった。
そんな競馬の舞台裏を知り尽くすべく、
インサイダーとしてもなく、
アウトサイダーとしてもなく、
栗東トレーニングセンターに毎週通い続ける男がいる。

栗東トレーニング極道

The Road to an Expert with JRA Ritto Training Center:
an Interview with Kazunori Kubo

「FOUNDERS」編集部 取材・構成

榎田ルミ子 写真

Photographs by Rumi Enokida

—— 毎週水曜日、朝早く起きて、栗東トレーニングセンターに通われていますね。

久保 そうです。毎日、朝方まで起きてる僕が午前4時に起きるんだからおかしな話ですよ(笑)。水曜日は、毎週のように身体のリズムが狂っちゃうんですよ。

—— トレセンの外で生活している人間が、いきなりトレセンの中の生活に入っていくのですから、まず時間という面での大変さはあるでしょう。大阪の自宅から直接、栗東へ向かわれるのですか。それとも、前日に栗東トレーニングセンターの近くに泊まれるのでしょうか。

久保 今の時期は、前日入りして栗東駅前の普通のホテルに泊まってますね。日の出の早い春や夏は、朝の5〜6時から調教開始なんで、自宅からだとしても間に合わないですから。太陽が出るのが遅くなる秋冬は調教開始が7時からになるんで、そうなったら5時前に家を出れば、調教の開始に間に合います。大阪駅近くに引っ越してきたんは、それもあるんですよ。大阪駅からだと5時に始発があるんでね。—— 当たり前ですけど、馬の調教は待ったなしなので、絶対に寝坊できない。さすがに前の日の晩は、お酒もおち飲めないですよ。

久保 そうですね。まあ、一週間でアルコールを抜く機会っていえば、その日くらいしかないんで、身体にとってははちょっといいんです。休肝日ということ(笑)。

—— 栗東トレセン通いは、健康のためにもいいようですね(笑)。ところで、栗東トレセンに通い始めて、今年で何年目になりますか。ずいぶん前から通われている気がしますが。

久保 5年くらいですかね。
—— 毎週毎週、年末年始もなく5年間ですから、たまには休みたくなる日もあったことでしょう。

久保 さすがに慣れてきましたよ。それに勉強することもまだまだたくさん

さんあるし。

—— それほど長い間通っていると、顔を覚えてもらったりするのはないでしょうか。顔なじみの厩舎を訪れたりするのですか。

久保 いや、ほとんど行かないです。呼んでもらえたらもちろん行きませんが、厩舎関係の知り合いは少ないですね。

—— それは意外です。でも、かえって私情の入った予想にならなくていいのかもしれない。先ほど、勉強することがたくさんあるとおっしゃっていましたが、栗東トレセンに通っていて、勉強になったことなど教えてくださいませんか。

久保 集団行動が大切なかもしれないと思ったことです。馬は馬房でずっと独りだと、やっぱり寂しいと思いますよ。集団行動の中で鍛えられた馬のほうが、どちらかといえば活気がある印象を受けます。

—— 栗東だと、松田国英厩舎が集団調教の先駆けでしたよね。その頃は、かなり白い目で見られたらしいですよ。集団で歩かせたりすると、威圧的で、他の馬が興奮して危ないから止めてくれっていう意見もあつたらしいです。でも、そのやり方を取り入れた調教師や厩舎がこうして結果を出している以上、正しかったということになるんでしょう。

久保 栗東に通い始めた最初の頃から、その印象は受けていました。集団で扱ったほうが多くの人間がその馬を見るわけで、馬にどこか悪いところがあつたりしたら、異変にもすぐ気づくと思うんですよ。それにやる気がやっぱり違う。馬だけじゃなく、そこで働く厩務員のやる気だって違ってくる。いい循環ができればいいと思います。

—— それでは、もう少し具体的な話というか、馬券的な話もしましょうか。久保さんほどのコースの「調教」を中心に見ているのでしょうか。

久保 栗東の調教は坂路を中心に見ています。CWコースはもちろんですが、いちおうポリトラックもBコースもチェックしています。ただ、ポリトラックやBコースは頭数が少ないのに加えて、成績とはあんま

栗東トレセン極道

久保和功に訊く